

イ 歴史的分野

(7) 目標

(1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

＊歴史的分野の基本的な目標を示している

＊我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させることが歴史的分野の学習の中心であり、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てることを述べている

「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ」:

- ・歴史的分野の学習の中心は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえるべきものだという位置付けを明確にしたもの
- ・我が国の歴史と関連する世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかにした上で、我が国の歴史を大きくとらえさせることが学習の中心であること

「我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる」:

- ・我が国や郷土の伝統と文化の特色を、国際的な視野を含む幅広い角度から考えさせ、それを継承することが大切であることを示す

(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

＊歴史上の人物と文化遺産に関する学習について示したもの

＊歴史を具体的に理解させるためには、歴史の展開の中で大きな役割を果たした人物や各時代の特色を表す文化遺産を取り上げることが大切であることを述べている

人物の学習について:

- ・歴史が人間によってつくられてきたものであることを踏まえて国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物を取り上げ主体的に社会を変革しかつ歴史の形成に果たした役割について学ぶことが大切である

＊その際、人物の活動した時代背景と地域とを関連させながら、その果たした役割や生き方を具体的に理解させる必要がある

文化遺産の学習について:

- ・それぞれの地域的特質と関連付けながら、身近な生活とかかわる文化遺産を取り上げ抽象的・概念的にならないように留意しながら風土的条件と文化的条件及び現在とのかかわりに目を向けその価値を考えさせてそれらを尊重する態度を育成することが求められる

(3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもち、国際協調の精神を養う。

＊歴史に見られる国際関係や文化交流に関する学習について示したもの

＊我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせることなどが大切であることを述べている

「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ」る学習について:

- ・国際化の進展の著しい社会に生きる生徒に他民族の文化や生活などに関心をもち我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせて国際協調の精神を育成することが求められる

(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

*生徒が身に付けるべき望ましい能力と態度について示したもの

*生徒が歴史を主体的に学習し、歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現することなどが大切であることを述べている

「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習」について：

- ・これらを取り上げることでその時代の様子を実感させ生徒の歴史に対する興味・関心を高めることが求められる

「様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察」する学習について：

- ・個々の生徒の学習活動をより活発で主体的なものとするために文献や絵図、地図、統計など歴史学習にかかわる様々な性格の資料や、作業的・体験的な活動によって得られた幅広い資料の中から、必要な資料を選択して有効に活用することで、歴史的事象を一面的にとらえるのではなく、様々な角度から考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育成することが大切である

歴史的分野全体に関する内容の取扱い

(1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 生徒の発達の段階を考慮して、各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成すること。

イ 歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること。

ウ 各時代の文化については、代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせるようにすること。

エ 歴史的事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮すること。

オ 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物に対する生徒の興味・関心を育てる指導に努めるとともに、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて時代的背景と関連付けて考察させるようにすること。その際、身近な地域の歴史上の人物を取り上げることに留意すること。

カ 日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなどして具体的に学ぶことができるようにすること。

(4) 内容

(1) 歴史のとらえ方

- ・「ウ学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」は、「我が国の歴史の大きな流れ」を「各時代の特色を踏まえて理解させ」という歴史的分野の学習の基本的なねらいを踏まえ、新たに項目として設定したものである
- ・ア、イ、ウ各項目の学習に当たっては、小学校における学習を踏まえるとともに、指導計画の中に適切に位置付けて内容の(2)以下の学習と密接な関連をもたせる必要がある

ア 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。

(内容の取扱い)

- ア アについては、中学校の歴史学習の導入として実施することを原則とすること。小学校での学習を踏まえ、扱う内容や活動の仕方を工夫して、「時代の区分やその移り変わり」に気付かせるようにすること。「年代の表し方や時代区分」の学習については、導入における学習内容を基盤にし、内容の(2)以下とかがわらせて継続的・計画的に進めること。
- エ ア、イ及びウについては、適切かつ十分な授業時数を配当すること。

小6社会(1) →

・我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにすること

小6社会(1)イ

(内容の取扱い) →
・我が国の歴史は政治の中心地や世の中の様子などによって幾つかの時期に分けられることに気付くようにすること

主な学習内容

「我が国の歴史上の人物や出来事など」:

- * 小学校において人物を重視した歴史学習が行われていることを受け、その内容を活用する

「調べたり考えたりするなどの活動」:

- * 扱う内容や活動の仕方を工夫し、「時代の区分やその移り変わり」に気付かせるとともに、「歴史を学ぶ意欲を高める」ように指導する

◎時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる

- ・歴史的事象の理解にとって必要な「年代の表し方や時代区分」の学習
- * 「導入における学習内容を基盤にし、内容の(2)以下とかがわらせて継続的・計画的に進める」必要がある

- * 小学校での学習を踏まえ「中学校の歴史学習の導入として実施することを原則」とする

→高日本史A(1)
・私たちの時代と歴史
→高日本史B(1)ア
・歴史と資料
→高日本史B(2)ア
・歴史の解釈
→高日本史B(3)ア
・歴史の説明

学習の手立ての例

- ・ 小学校で学習した歴史上の人物や出来事を中心に略年表を作成する
- ・ 歴史上の人物の業績から、時代の転換点を考える(「時代を変えた人物は?」)
- ・ 歴史上の人物や出来事を、共通点(政治の中心人物や中心地、文化、世の中の様子等)からグループ分けし、大きな歴史の流れをまとめる
- 🏠 静岡県や学校所在地の文化遺産(遺跡、寺社等)や地域の偉人を年表に盛り込む
- ★ 世界史の略年表から、我が国の歴史の流れと世界の歴史の流れとの関連を捉える
- ・ 歴史上の人物や出来事を、時代や年代の表し方(時代区分、元号、西暦、世紀、十干十二支)を用いて説明する
- ★ コンピュータや写真、地図等を利用して年表を作成する

(1) 歴史のとらえ方

イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。

(内容の取扱い)

イ イについては、内容の(2)以下とかかわらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。

エ ア、イ及びウについては、適切かつ十分な授業時数を配当すること。

小3, 4社会(5) →

・地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする

小3, 4社会(5)ア →

・古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子

小3, 4社会(5)イ →

・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

小3, 4社会(5)ウ →

・地域の発展に尽くした先人の具体的事例

主な学習内容

「身近な地域」:

- ・生徒の居住地や学校の所在地域を中心に、生徒による「調べる活動」が可能な、生徒にとって身近に感じることができる範囲
- *それぞれの地域の歴史的な特性に応じて、より広い範囲を含む場合もある

◎地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させる

- ・身近な地域における歴史的な事象を取り上げることで、具体性や実感をもたせながら、我が国の歴史の動きを理解させる

◎受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる

- ・生徒による「調べる活動」となるようにし、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫する
- ・身近な地域における具体的な歴史的な事象からその時代の様子を考えさせる
- *民俗学や考古学などの成果を生かし、博物館、郷土資料館などの施設の活用や地域の人々の協力も考慮する

- *「地理的分野との連携」や「公民的分野との関連」にも配慮し、「内容の(2)以下とかかわらせて計画的に実施」する必要がある

→高日本史 A (1)

・私たちの時代と歴史

→高日本史 B (1) ア

・歴史と資料

→高日本史 B (2) ア

・歴史の解釈

→高日本史 B (3) ア

・歴史の説明

学習の手立ての例

- ・地域の歴史は地域の実情に応じて、取り上げやすい単元で扱う
- ・地域の文化財（史跡、寺社等）や年中行事（祭礼、慣習等）に視点を当てて、調査活動を行う
- ・身近な博物館や郷土資料館等での実地調査、地域の人材への聞き取り調査を生かして学習を進める
- 🏠 調査においては、小学校で活用した各市町の副読本を利用しながら、中学校の歴史的内容と結び付ける例（蛭ヶ小島と源頼朝、島田大空襲と第二次世界大戦、新居関所と交通統制等）
- ★ 市町村史を用いて、地名の由来や以前の地名を調べる
- ・調査したことを我が国の歴史と関連付けてまとめる（律令と条里制、五街道と宿場等）
- 🏠 地域の歴史と静岡県の歴史との関連を考える（共通点と相違点、つながり）
- ★ コンピュータや写真、地図等を利用してレポートを作成する
- * 「地理的分野との連携」や「公民的分野との関連」（各分野の「内容の取扱い」を参照）
 - 〈地理的分野〉 3 (2)ウ 「地域の特色や文化をとらえるに当たっては、歴史的背景に留意して地域的特色を追究するよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮すること。」
 - 〈歴史的分野〉 3 (1)エ 「歴史的な事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮する。」
 - 〈公民的分野〉 3 (1)ア 「地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、…」
 - (2)ア(ア) 「地理的分野、歴史的分野との関連を図り、現代社会の特色をとらえさせるようにすること。」
 - (5)ア(ア) 「地理的分野、歴史的分野との関連を図り、その学習の成果を生かす工夫を行うこと。」

(1) 歴史のとらえ方

ウ 学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。

(内容の取扱い)

ウ ウについては、内容の(2)以下の各時代の学習のまとめとして実施することを原則とすること。その際、各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成した上で、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、大観や表現の仕方を工夫して、各時代の特色をとらえさせるようにすること。
エ ア、イ及びウについては、適切かつ十分な授業時数を配当すること。

主な学習内容

「時代を大観し表現する活動」:

- ・学習した内容の比較や関連付け、総合などを通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目しながら、「つまりこの時代は」「この時代を代表するものは」など各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動

◎各時代の特色をとらえさせる

- ・思考力・判断力・表現力等を養うとともに、各時代の特色を生徒が自分の言葉で表現できるような確かな理解と定着を図る
- ・多くの事象を個別に「覚える」だけの学習ではなく、各時代の特色などひとまとまりの学習内容の焦点や脈絡が「分かる」学習を実現していく

*内容の(2)以下の各時代の学習のまとめとして実施することを原則とする

- ・各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成するための、学習の動機付けが求められる
例) ・生徒がもっているその時代のイメージを表現させる
・前の時代との違いを予想させる
・大観や表現の仕方を工夫して、各時代の特色をとらえさせるようにする

→高日本史A(1)
・私たちの時代と歴史
→高日本史B(1)ア
・歴史と資料
→高日本史B(2)ア
・歴史の解釈
→高日本史B(3)ア
・歴史の説明

学習の手立ての例

- ・単元の導入に、その時代のイメージを話し合う
- ・単元のまとめとして、どのような時代であったか(前の時代との共通点や相違点など)をアプローチの視点に沿ってレポートにまとめる
- ・作成レポートにグラフ、表、絵や写真、地図、言葉などを効果的に盛り込む
- ・同じ視点や異なる視点同士でのレポート交流を通して、各時代の特色を大きく捉える

<アプローチの視点例>

「原始・古代」…人物の業績、文字の発達、国際関係、政治の仕組み、人々の生活、文化の特色等

「中世」…武家・公家の勢力、国際関係、政治の仕組み、人々の生活、文化の特色等

「近世」…国際関係、政治の仕組み、人々の生活、産業の発展、文化の特色 等

「開国と近代の幕開け」…江戸時代と明治時代の比較、世界の動きと日本、政治の特色、経済の特色、産業の特色、文化の特色、国民生活 等

「二度の世界大戦と日本」……民主主義、経済成長、国民生活、国際関係、戦争と平和 等

「現代」…世界の中の日本、国際関係、政治の特色、経済の特色、環境問題、文化の特色、国民生活 等

📄 レポート作成の中に静岡県や学校所在地の歴史を盛り込む

★ コンピュータや写真、地図等を利用してレポートを作成する

(2) 古代までの日本

- ・従前の「(2)古代までの日本」の中項目アとイを、我が国の古代までの特色を大きくとらえさせる観点から一つにし、三つの中項目からなる大項目として構成した
- ・この時期の我が国では、農耕・牧畜が始まって文明がおこり国家が形成されていったという世界の動きの中で、特に東アジアと深いかかわりを持ちながら、農耕の広まりによる生活の変化、国家の形成と発展、天皇・貴族による政治の展開、文化の発展などの動きがみられた

ア 世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなどを通して、世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる。

(内容の取扱い)

- ア アの「世界の古代文明」については、中国の文明を中心に諸文明の特色を取り扱い、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などの共通する特色に気付かせるようにすること。また、人類の出現にも触れること。「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、世界の文明地域との重なりに気付かせるようにすること。「日本列島における農耕の広まりと生活の変化」については、狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことに気付かせるようにすること。「大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり」については、古墳の広まりに触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせるようにすること。
- エ 考古学などの成果を活用するとともに、神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせるよう留意すること。

主な学習内容

「世界の古代文明や宗教のおこり」:

- ・人類の出現にも触れ、日本と最もかかわりの深い中国の文明を中心にしながら、世界の各地で人々が農耕や牧畜を基盤に諸文明を築いたことを取り扱う
 - * 金属器の使用、漢字の発生などを取り上げ、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などの共通する特色に気付かせる
 - * 仏教、キリスト教、イスラム教などのおこった地域が、それぞれインド、西アジアなどの世界の文明地域と重なることに気付かせる

「日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰」:

- ・日本の豊かな自然環境の中における生活が農耕の広まりとともに変化していったこと
- ・自然崇拝や農耕儀礼などに基づく信仰が人々の中に生きていたことに気付かせる
 - * 新たな遺跡や遺物の発見による考古学などの成果の活用を図る

「大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり」:

- ・古墳の広まりにも触れ、大和地方を中心に国内が統一されたことを、小学校での学習を踏まえて大きくとらえさせる
 - * 大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせる

◎世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる

→高世界史A(2)ア
・ユーラシアの諸文明
→高世界史B(2)ウ
・東アジア世界・内陸アジア世界

→高日本史B(1)イ
・日本文化の黎明と古代国家の形成

小6社会(1)ア →
・狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

学習の手立ての例

- ・ 化石人類の頭蓋骨の比較から、人類の進化を考える
- ★ 地球カレンダーを基に、地球の歴史から人類の出現を考える
- ★ 旧石器時代と新石器時代の石器の比較から、技術や生活の変化を話し合う
 - ・ 農耕・牧畜の始まりと文明発生とのつながりを話し合う
 - ・ 中国文明と他の文明のおこりと広がりとの比較から、共通する特色（農耕・牧畜，王，都市，青銅器・鉄器，文字等）を考える
- ★ 歴史のなかで、文字の発明が持つ意味を話し合う
 - ・ 宗教（仏教，キリスト教，イスラム教）がおこった地域と古代文明が発生した地域との比較を通して、当時の人々の意識や生活とのつながりを話し合う
- ★ ヨーロッパの古代文明の発展とキリスト教の広がりを調べる
 - ・ 縄文時代と弥生時代の遺物や生活イメージ図の比較から、農耕の広まりが人々の生活に与えた影響を話し合う
 - ・ 具体的な遺物（土偶，銅鐸・銅剣・銅矛）から、当時の人々の生活や信仰，ものの見方等を考える
- ★ 稲作の伝播ルートから、日本列島における稲作の広がりを考える
- 📍 地元の遺跡調査（浜松市の蜷塚遺跡，静岡市の登呂遺跡，伊豆の国市の山木遺跡等）
- 📍 静岡県埋蔵文化財センターによる出前講座を活用する
 - ※主に古代までの静岡県内の歴史を中心に、講座の内容は各学校のリクエストに応じます
 - <講座例> 「古代までの市町（学区の歴史）を見つめてみよう」
 - 「出土した土器から何が分かるか」
 - 「静岡県の古墳分布と発掘調査」 等 …「火おこし」「勾玉づくり」体験も可能
 - <HPアドレス> <http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-100/maibuncenter/20110406top.html>
- ・ 中国の歴史書（「漢書」地理誌・「後漢書」東夷伝・「魏志」倭人伝）の記述から、社会の変化や中国との関係を調べる
- ・ 前方後円墳の分布状況や稲荷山古墳の鉄剣と江田船山古墳の鉄刀に刻まれた文字から、大和政権の勢力を話し合う
- 📍 身近な地域の古墳分布（磐田市の銚子塚古墳，静岡市の賤機山古墳，三島市の向山古墳等）を調べる
 - ・ 渡来人が伝えた文化が，大和政権の発展や人々の生活に与えた影響を話し合う
- ★ 「宋書」倭国伝や広開土王（好太王）の碑文から，倭の王と中国・朝鮮との関係を調べる
- ★ 氏姓制度から，大和政権と豪族との関係を話し合う

(2) 古代までの日本

イ 律令国家の確立に至るまでの過程，摂関政治などを通して，大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる。

(内容の取扱い)

イ イの「律令国家の確立に至るまでの過程」については，聖徳太子の政治，大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を，小学校での学習内容を活用して大きくとらえさせるようにすること。

エ 考古学などの成果を活用するとともに，神話・伝承などの学習を通して，当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせるよう留意すること。

主な学習内容

小6 社会(1)イ →

- 大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子，貴族の生活について調べ，天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること

「律令国家の確立に至るまでの過程」:

- 聖徳太子の政治，大化の改新などについて，我が国が律令国家として形づくられていったことを大きくとらえさせる
 - * 小学校での学習の単なる繰り返しにならないよう留意し，その学習内容を有効に活用する
 - * このころ初めて大化という元号が使われたことに触れる

「摂関政治」:

- 平安京における貴族の政治の特色をとらえさせる

◎大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ，その後，天皇や貴族の政治が展開したことを理解させる

古代までの学習の全般にかかわる留意事項

- * 考古学などの成果を活用を図るとともに，後に古事記・日本書紀などにまとめられた神話・伝承などの学習を通して，当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせることに留意する

→高日本史B(1)イ

- 日本文化の黎明と古代国家の形成

→高日本史B(1)ウ

- 古代国家の推移と社会の変化

→高世界史A(2)ア

- ユーラシアの諸文明

→高世界史B(2)ウ

- 東アジア世界・大陸アジア世界

学習の手立ての例

- 聖徳太子が行った政治（十七条の憲法，冠位十二階，遣隋使）の特色を調べ，当時の社会や東アジア（中国・朝鮮）の変化からその背景を話し合う
- ★ 仏教の伝来後の蘇我氏と物部氏との宗教対立を調べる
- 蘇我氏を倒した645年から大宝律令制定までの過程を調べ，進められた政治改革の特色を話し合う
- 律令国家が成立する前後の政治や外交，人々の生活を比較することを通して，律令国家の特色を考える
- 古事記，日本書紀の神話・伝承から，人々の信仰やものの見方等を話し合う
- 農民の生活の様子から墾田永年私財法が出された理由を考える
- ★ 聖武天皇が大仏造営のために行った政策を調べる
- 🏯 国郡里制における当時の静岡の国名・郡名を調べる
- 🏯 国府跡（磐田市の遠江国府跡，藤枝市の志太郡衙跡）を調べる
- 🏯 神話の中の静岡県（草薙，焼津等）を調べる
 - 平城京と平安京の地図の比較から，遷都の理由を話し合う
- ★ 蝦夷の抵抗（アテルイ・モレ）を調べる
- 藤原氏の系図を基に，貴族である藤原氏が政治の実権を握った理由を考える
- ★ 荘園の拡大を不輸・不入の権の獲得から考える
- 🏯 万葉集，木簡に記された内容から，当時の静岡県の様子を調べる

ウ 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる。

(内容の取扱い)

ウ ウについては、文化を担った人々などに着目して取り扱うようにすること。

エ 考古学などの成果を活用するとともに、神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせるよう留意すること。

主な学習内容

小6 社会(1)イ →
・大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること

「仏教の伝来とその影響」:

・大陸からもたらされた仏教が我が国の文化の様々な面に影響を及ぼしたことに気付かせる

「仮名文字の成立」:

・日本独自の仮名文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気付かせる

◎国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解させる

* 天皇・貴族、遣唐使、物語の作者などの文化を担った人々に着目させる。その際、代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせる

→高世界史A(2)ア
・ユーラシアの諸文明

→高世界史B(2)ウ
・東アジア世界・内陸アジア世界

→高日本史B(1)イ
・日本文化の黎明と古代国家の形成

→高日本史B(1)ウ
・古代国家の推移と社会の変化

学習の手立ての例

- ・ 聖徳太子、聖武天皇、最澄や空海、藤原頼通が建立した寺院の目的を比較することを通して、仏教が当時の社会や文化に及ぼした影響を考える
- ・ 紫式部や清少納言の文学作品が生まれた理由を、摂関政治や遣唐使の停止と関連付けて話し合う
- 🏯 国分寺跡（磐田市の遠江国分寺跡、三島市の伊豆国分寺跡）の様子を調べる
- 🏯 「万葉集」の中から、静岡県に関わりのある歌や防人の歌を調べる
- ★ 東西の交通路（シルクロード、海の道、草原の道）と当時の世界情勢を調べる
- ★ 鑑真の生涯を調べる
- ★ 紫式部や清少納言の文学作品から貴族の生活を探る

学習の手立ての例

～時代を大観し表現する活動「原始・古代」～

- ・ 単元の導入に、小学校で学習した人物（卑弥呼、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、紫式部、清少納言）から、時代のイメージを話し合う
- ・ 単元のまとめとして、どのような時代であったか(原始との共通点や相違点等)をアプローチの視点に沿ってまとめる
- ・ 視点ごとや視点別のレポート交流を通して、各時代の特色を大きく捉える

<アプローチの視点例>

「原始・古代」…人物の業績、文字の発達、国際関係、政治の仕組み、人々の生活、文化の特色等

(3) 中世の日本

- この時期の我が国では、武士の支配が次第に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられ、諸産業の発達と都市や農村の変化、武家政治の展開や民衆の活力を背景とした新たな文化の展開などの動きがみられた

ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。

(内容の取扱い)

ア アの「東アジアの国際関係」については、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割などを取り扱うようにすること。「武家政治の特色」については、主従の結び付きや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。

小6社会(1)ウ →

- 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること

小6社会(1)エ →

- 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かること

主な学習内容

「鎌倉幕府の成立」「南北朝の争乱と室町幕府」:

- 御家人制度を基盤とする鎌倉幕府が成立し、その後南北朝の争乱の中で室町幕府が成立するという動きを通じて、次第に武士が大きな力をもってきたことに気付かせる

「東アジアの国際関係」:

- 元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割などを取り扱うようにし、この時代の東アジア世界との密接なかかわりや、それが国内に及ぼした影響などに気付かせる

「応仁の乱後の社会的な変動」:

- 各地に戦乱が広まる中で地方の武士の力が強くなったことを扱う

◎武家政治の特色:

- 武士が台頭し、やがて主従の結び付きや武力を背景にして東国に武家政権が成立したことなど、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせる

◎武家社会の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる

- 高世界史A(2)ア
- ・ユーラシアの諸文明
- 高世界史B(3)ウ
- ・内陸アジアの動向と諸地域世界
- 高世界史B(4)ア
- ・アジア諸地域の繁栄と日本

- 高日本史B(1)ウ
- ・古代国家の推移と社会の変化
- 高日本史B(2)イ
- ・中世国家の形成
- 高日本史B(2)ウ
- ・中世社会の展開

学習の手立ての例

- 武士の成長を、院政の始まりと院政をめぐる対立の過程から考える
- 武家政権が鎌倉に誕生した理由を、主従関係や平安後期から鎌倉幕府成立までの出来事、天皇や貴族の政治との違いから考える
- 後鳥羽上皇の義時追討命令と政子の演説を比較して、なぜ多くの武士が鎌倉方の味方になったのかを考え、承久の乱が武家政権(鎌倉幕府)の勢力拡大に及ぼした影響を話し合う
- 貴族と武士の住居や生活を比較したり、御成敗式目等の資料を読み取ったりすることを通して、当時の武士の生活ぶりを考える
- 元寇がなければ鎌倉幕府は滅亡しなかったのか、貨幣経済の広がりから考える
- ★ 土地の二重支配の様子を調べる
- ★ モンゴル帝国の拡大と東アジアの変化を調べ、元寇の背景を考える
- 📍 源頼朝関係の史跡、名所を調べる
(例:伊豆の国市の蛭ヶ小島、静岡市の梶原山、袋井市の源朝長墓)
- 鎌倉幕府滅亡から建武の新政、南北朝の争乱を調べ、室町幕府誕生までの過程をまとめる
- 室町幕府と鎌倉幕府の成り立ちや仕組みを比較することで、室町幕府の特色を考える
- 二条河原落書から、建武の新政後の混乱を考える
- 日明貿易や琉球王国、アイヌとの交易の様子を調べ、政治や文化に与えた影響を話し合う
- 応仁の乱が戦国時代のきっかけとなった理由を考える

(3) 中世の日本

イ 農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，禅宗の文化的な影響などを通して，武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

(内容の取扱い)

イ イの「武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化」については，この時代の文化の中に現在に結び付くものがみられることに気付かせるようにすること。

主な学習内容

小6社会(1)エ →
・京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ，室町文化が生まれたことが分かること

「農業など諸産業の発達」「畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立」:

- ・これらが当時の社会の大きな変化であることに着目させ，技術面の進歩によって農業や手工業が著しく発達したことや，それに伴って人々の生活が向上したこと，商品流通が活発化したことに気付かせる

「禅宗の文化的な影響」:

- * 絵画，建築などに着目して扱う
- ・新たに生まれた文化の特色を考えさせるようにし，現在に結び付くものがみられることに気付かせる
- * 代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせる

◎武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる

→高日本史B(2)イ
・中世国家の形成
→高日本史B(2)ウ
・中世社会の展開

学習の手立ての例

- ・新しい仏教が多くの人々に受け入れられた理由を，その教えや当時の社会の様子から考える
- ・農村にできた自治組織や技術面の進歩，交通の発達，産業や人々の生活に与えた影響を考える
- ・銀閣と現代日本家屋の造りを比較する
- ・室町文化が全国に広がった理由を，応仁の乱と関連付けて考える
- ★ 堺等の自治都市とヨーロッパの自治都市を比較する
- ★ なぜ経済の発達した畿内で一揆が多いのかを調べる
- ★ 現代に伝わる鎌倉文化，室町文化の見学や体験（能，狂言，茶道等）
- 🗺️ 室町から戦国時代の史跡を調べる
(例：伊豆の国市の江川家住宅，富士市の実相寺，島田市の智満寺，静岡市の霊山寺仁王門，浜松市の方広寺七尊菩薩堂)
- 🗺️ 茶の伝来（栄西，聖一国師）を調べる
- 🗺️ 富士講の由来を調べる

学習の手立ての例

～時代を大観し表現する活動「中世」～

- ・単元の導入に，中世に活躍した人物や出来事，歴史的文化遺産から，時代を概観する
- ・平安時代末期からの日本の動きと世界の動きを年表にまとめる
- ・中世の出来事の舞台となった場所を地図で確かめる
- ・中世の出来事や動きを説明する
- ・中世の時代の視点ごと特色を考え，各時代の特色を大きく捉える

<アプローチの視点例>

「中世」…武家・公家の勢力，国際関係，政治の仕組み，人々の生活，文化の特色 等

(4) 近世の日本

- ・従前の「(4)近世の日本」の中項目アとイを、我が国の近世の特色を大きくとらえさせる観点から一つにし、四つの中項目からなる大項目として構成した
- ・この時期の我が国では、織田・豊臣による統一事業及び江戸幕府による諸政策を通して生まれた安定した社会が、その後長く続いた。外国とのかかわりでは、ヨーロッパ文化の伝来や東南アジア各地への日本人の渡航など対外関係が活発な時期から、外国との交渉が限定された時期へと移っていった。その中で産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されていった

ア 戦国の動乱，ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを通して，近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる。

(内容の取扱い)

ア アの「ヨーロッパ人来航の背景」については、新航路の開拓を中心に取り扱い、宗教改革についても触れること。「織田・豊臣による統一事業」については、検地・刀狩などの政策を取り扱うようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)オ →
 ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること

「戦国の動乱」:

- ・戦国大名が各地に割拠し、自らの力で領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことなどに気付かせる

「ヨーロッパ人来航の背景とその影響」:

- * 新航路の開拓を中心に取り扱い、宗教改革についても触れる
- ・ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになり、それらが日本の社会に影響を及ぼしたことを扱う

「織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係」:

- ・それまでの時代との違いに着目させ、織田信長が行った仏教勢力への圧迫や關所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世に大きな力を持った勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気付かせる
- * 当時の対外関係として、東南アジアなどとの積極的な貿易、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などを取り上げる

「武将や豪商などの生活文化の展開」:

- ・南蛮貿易が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気付かせる

→高世界史A(2)イ
 ・結び付く世界と近世の日本
 →高世界史B(4)イ
 ・ヨーロッパの拡大と大西洋世界
 →高世界史B(4)ア
 ・アジア諸地域の繁栄と日本

→高日本史B(2)ウ
 ・中世社会の展開
 →高日本史B(3)イ
 ・近世国家の形成

◎近世社会の基礎がつくられていったことを理解させる

学習の手立ての例

- ・ 城下町の様子や分国法の記述から、戦国大名の領国支配の特色を話し合う
- 🏠 今川氏の「今川仮名目録」から、領国支配の様子を調べる
- 🏠 戦国時代の史跡を調べる
 (例: 三島市の山中城跡、島田市の諏訪原城跡、静岡市の臨濟寺本堂、浜松市の方広寺七尊菩薩堂・高根城跡)
- ・ 大航海時代の到来や宗教改革等、当時のヨーロッパ世界の変化の概要をまとめ、鉄砲やキリスト教伝来の理由を考える
- ★ 十字軍の遠征、ルネサンス等、ヨーロッパの動きを調べる
- ・ 織田信長が楽市・楽座を始めた理由を、商工業発達や寺社勢力牽制の視点から考える
- ・ 豊臣秀吉が兵農分離を行った理由を考える
- ・ 織田と豊臣の統一事業や対外関係について調べ、二人がどのような社会をつくらうとしていたかを話し合い、中世との違いを考える
- ★ 朝鮮水軍の亀甲船や有田焼を始めた陶祖、李参平を調べる
- 🏠 今川義元の上洛と桶狭間の戦いを調べる
- ・ 南蛮貿易によりもたらされた新しい文化を調べ、その特色を考える
- ・ 当時の建造物や絵画、民衆に広がった文化から、桃山文化の特色を話し合う
- ★ 足軽の活躍から戦い方の変化を考える

(4) 近世の日本

イ 江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、鎖国下の対外関係などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。

(内容の取扱い)

イ イの「鎖国下の対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。「江戸幕府の政治の特色」については、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)オ →
 ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること

「江戸幕府の成立と大名統制」:

- ・幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付かせる

「鎖国政策」:

- ・幕府によるキリスト教の禁止、外交関係と海外情報の統制、大名の統制などの面があったことに気付かせる

「身分制度の確立及び農村の様子」:

- ・身分制度が確立し、それぞれの身分の中で人々が職分を果たしたこと、人口の多数を占めた農民が村を生活の基盤として農作業などで助け合いながら暮らしていたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことに気付かせる

「鎖国下の対外関係」:

- ・長崎でのオランダ、中国との交易、対馬を通しての朝鮮との交流、中国とのかかわりにおける琉球の役割、蝦夷地で独自の文化を築いていたアイヌの人々が、海産物など北方との交易をしていたことに着目させ、統制の中にも交易や交流がみられたことに気付かせる

◎江戸幕府の政治の特色を考えさせる:

- ・その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家社会との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせる

◎幕府と藩による支配が確立したことを理解させる

→高世界史B(4)ア
 ・アジア諸地域の繁栄と日本

→高日本史B(3)イ
 ・近世国家の形成

学習の手立ての例

- ・徳川家康から家光までの政策と社会の動きを年表にまとめ、幕府がおよそ260年間続いた理由を話し合う
- ・幕府の厳しい大名統制に対し、大名が反乱できなかった理由を考える
- 📍 江戸時代の史跡を調べる
 (例:伊豆半島のナコウ山など伊豆江戸城石垣石切場跡, 沼津市の沼津城(三枚橋城)跡, 静岡市の駿府城跡・久能山東照宮, 浜松市の浜松城跡, 湖西市の新居関跡)
- 📍 三浦按針による帆船建造(伊東市)を調べる
 - ★ 関ヶ原の戦いのきっかけや戦いの様子など, 具体的内容を調べる
 - ・江戸幕府の外交政策が変化していく過程を調べ, 鎖国へと変化した理由を話し合う
 - ・なぜ, 幕府はヨーロッパの中でオランダとだけ貿易をしたのかを考える
 - ★ 島原・天草一揆のきっかけや一揆の様子など, 具体的内容を調べる
 - ★ 日本町の現在の様子を調べる
- 📍 タイのアユタヤ王朝での山田長政の活躍を調べる
- 📍 東海道の旧宿場町に残る朝鮮通信使や琉球使節の記録を調べる(例:静岡市の清見寺)
 - ・なぜ, 農民の生活が豊かにならないようにしたかを考える
 - ・身分制度による人々の生活の違いを調べ, その制度が幕府による人々の支配に果たした役割を話し合う
 - ・江戸時代の社会と中世の武家社会の様子を比較し, 江戸幕府による政治の特色を話し合う
 - ★ 江戸の長屋における町人の生活を調べる
- 📍 由井正雪と慶安事件を調べる

(4) 近世の日本

ウ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。

(内容の取扱い)

ウ ウの「産業や交通の発達」については、身近な地域の特色を生かすようにすること。「各地方の生活文化」については、身近な地域の事例を取り上げるように配慮し、藩校や寺子屋などによる「教育の普及」や社会的な「文化の広がり」と関連させて、現在との結び付きに気付かせるようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)カ →
・歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること

「産業や交通の発達」:

- ＊地域の特色を生かした事例を選んで内容を構成するなど、身近な地域の特色を生かすこと
例)・農林水産業の発達
 - ・手工業や商業の発達
 - ・河川・海上交通や街道の発達

「教育の普及と文化の広がり」:

- ・藩校や寺子屋などの普及に着目して人々の教育への関心の高まりに気付かせる
- ・学問・芸術・芸能などの地域的な広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことに気付かせる
 - ＊大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことや、衣食住、年中行事、祭礼などの各地方の生活文化が生まれたことを、身近な地域の事例を取り上げるように配慮して理解させるとともに、現在との結び付きに気付かせる
 - ＊代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせる

＊内容の(1)のイの身近な地域の歴史を調べる活動と結び付けて行うことも考えられる

◎町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる

→高日本史B(3)ウ
・産業経済の発展と幕藩体制の変容

学習の手立ての例

- ・全国的な産業や交通の発達の様子を調べ、静岡の特色を話し合う
- ・身近な地域の当時の特産物(米、茶、みかん、伝統工芸品等)の生産や輸送の様子を調べる
- 🏠 旧東海道を歩く一城下町(駿府、掛川、浜松)、門前町(三島)、宿場町(由比、島田)、関所(新居)等
- 🏠 地域の特色を生かした事例を調べる
(例:新居関所と人や物の移動、川越人足と大井川、角倉了以と富士川水運、芦ノ湖と深良用水、駿府の駿河竹千筋細工、地域の新田開発)
- ★ 江戸時代の環境に配慮した循環型の生活を調べる
- ・藩校や寺子屋の全国的な広がりの様子を調べ、全国的に広がった理由を話し合う
- 🏠 身近な元禄文化、化政文化の特色についてまとめ、身近な地域に伝わる衣食住や年中行事、祭礼を調べる
- 🏠 身近な地域に江戸時代から現代に伝わる衣食住や年中行事、祭礼(正月の雑煮や七草、節分の豆まき、ひな祭り、こいのぼり、盆踊り等)を調べる
- 🏠 広重の浮世絵「東海道五十三次」に描かれている風景と今の風景を比べる
- 🏠 富士講と浅間神社の関係を調べる(富士宮市の富士山本宮浅間大社)
- 🏠 友田家(森町)の由来や家の造りを調べる
- ★ 五穀(麦、粟、米、黍、豆)の起源と日本への伝来を調べる

(4) 近世の日本

エ 社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを通して，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。

(内容の取扱い)

エ エの「幕府の政治改革」については，百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から，代表的な事例を取り上げるようにすること。

小6 社会(1)オ →

・キリスト教の伝来，織田・豊臣の天下統一，江戸幕府の始まり，参勤交代，鎖国について調べ，戦国の世が統一され，身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること

小6 社会(1)カ →

・歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について調べ，町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること

主な学習内容

「社会の変動や欧米諸国の接近」:

- ・貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化に着目し，近世社会の基礎が動揺していったことに気付かせる
- ・江戸時代後半の外国船の接近や，それに対応した幕府による北方の調査や打払令などを取り扱う
- ＊欧米諸国の接近の事情については，内容の「(5)近代の日本と世界」のAで扱う

「幕府の政治改革」:

- ・百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から，代表的な事例を取り上げる
- ・財政の悪化などの背景や，改革の結果に着目させる

「新しい学問・思想の動き」:

- ・この時期におこってきた蘭学や国学などの中に新しい時代を切り開く動きが見られたことに気付かせる

→高日本史B(3)ウ
・産業経済の発展と幕藩体制の変容

◎幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる

学習の手立ての例

- ・百姓一揆や打ちこわしの発生件数を調べ，増加してきた背景と原因を話し合う
- ・ある農家の1年間の家計から，生活の苦しさを考える
- ・日本への外国船の接近の様子を調べ，幕府による北方調査や打払令の意味を考える
- 📍 富士山の噴火の歴史や宝永・安政の大地震を調べる
- ★ 飢饉から人々を救った野國總管と青木昆陽の業績を調べる
- ・享保の改革の目的や内容をまとめ，改革を行った背景や結果を話し合う
- ・なぜ，人々は松平定信の政治より田沼意次の政治を好んだのかを考える
- ・商業発達への対応の視点から，享保の改革以後の改革の概要をまとめ，幕府政治の状況の変化を捉える
- 📍 田沼意次と相良藩，水野忠邦と浜松藩の関係を調べる
- ★ 上杉鷹山による米沢藩の藩政改革を調べる
- ★ 各地で行われた藩政改革と，現在も続く伝統産業との関係を調べる
- ★ 緒方洪庵(適塾)やシーボルト(鳴滝塾)の業績を調べる
- ・新しい学問や思想の概要をまとめ，これらが生まれた背景を話し合う
- 📍 賀茂真淵(浜松市)と国学の発達を調べる

学習の手立ての例

～時代を大観し表現する活動「近世」～

- ・単元の導入に，近世に活躍した人物や出来事，歴史的文化遺産から，時代を概観する
- ・「近世新聞」作成のためのグループ(5人前後)を作る
- ・グループの中でそれぞれ取材テーマを決める
(取材テーマ例:「中世から近世への転換点はどこか」,「全国統一により日本の何が変わったか」等)
- ・教科書や資料集，本，インターネット等を使って必要な情報を集め，情報カードにまとめる
- ・情報カードを基に，各グループで「近世新聞」を作成する
- ・各グループの「近世新聞」を互いに読み合い，近世全体の特色を話し合う

<アプローチの視点例>

「近世」…国際関係，政治の仕組み，人々の生活，産業の発展，文化の特色 等

(5) 近代の日本と世界

- ・ 従前の「(5) 近現代の日本と世界」の中項目アからカを、近現代の学習を一層重視し我が国の近代の特色をとらえさせる観点から独立させ、「(5) 近代の日本と世界」という大項目として構成した
- ・ この時期の我が国は、欧米諸国のアジアへの進出など複雑な国際情勢の中で開国し、急速な近代化を進めて近代国家の仕組みを整え、その後常にアジア諸国や欧米諸国と密接なかかわりをもってきた

ア 欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。

(内容の取扱い)

ア アの「市民革命」については欧米諸国における近代社会の成立という観点から、「産業革命」については工業化による社会の変化という観点から、「アジア諸国の動き」については欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、それぞれ代表的な事例を取り上げるようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)キ →
 ・ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること

「市民革命」:

- ・ 欧米諸国における近代社会の成立という観点から、フランス革命などを取り上げ、近代民主政治への動きが生まれたことに気付かせる

「産業革命」:

- ・ 工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどを取り上げ、これを通して資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気付かせる
- ・ 産業革命の進展に伴って、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことに着目させる

「アジア諸国の動き」:

- ・ 欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、中国の動きなどを取り上げる

◎欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる

- 高世界史A(2)ウ
 ・ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成
- 高世界史A(2)エ
 ・ アジア諸国の変貌と近代の日本
- 高世界史B(4)ウ
 ・ 産業社会と国民国家の形成
- 高世界史B(4)エ
 ・ 世界市場の形成と日本

学習の手立ての例

- ・ イギリス、アメリカ、フランスの市民革命の概要を年表にまとめ、その背景を考える
- ・ イギリスの二つの革命前と革命後で、国王と議会の関係がどのように変化したかを考える
- ・ フランスの政治について革命前と革命後を比較し、どのように変化したかを話し合う
- ・ フランス人権宣言とアメリカ独立宣言に共通する言葉から、欧米で生まれた新しい社会の在り方を考える
- ★ ロック、モンテスキュー、ルソーの思想を詳しく調べる
- ★ ナポレオンのヨーロッパ支配について詳しく調べる
- ・ イギリスで産業革命が起こった理由や、産業と社会の変化を調べる
- ・ 産業革命がもたらした社会の光と影を調べ、社会主義という経済の仕組みが生まれた理由を考える
- ・ イギリスで始まった産業革命の欧米諸国への広がりを調べ、それぞれの国の社会の変化をまとめる
- ・ 産業革命後の欧米諸国が、アジアへの進出を強めた理由を話し合う
- ★ イギリスのロンドンで開催された初の万国博覧会の様子を調べる
- ・ イギリス・インド・清の貿易関係を、イギリスの産業革命前と産業革命後で比較し、関係の変化とその影響を考える
- ・ インドの大反乱やアヘン戦争について調べ、それらが起こった共通する理由を話し合う
- ・ 19世紀後半のヨーロッパによるアジア進出が鎖国中の日本に与えた影響を考える
- ・ なぜ、アメリカの北部は南部の独立を認めなかったのかを考える
- 🏠 葦山反射炉(伊豆の国市)築造の目的を調べる

(5) 近代の日本と世界

イ 開国とその影響，富国強兵・殖産興業政策，文明開化などを通して，新政府による改革の特色を考えさせ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

(内容の取扱い)

イ イの「開国とその影響」については，アの欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱うようにすること。「富国強兵・殖産興業政策」については，この政策の下に新政府が行った，廃藩置県，学制・兵制・税制の改革，身分制度の廃止，領土の画定などを取り扱うようにすること。「新政府による改革の特色」については，欧米諸国とのかかわりや社会の近代化など，それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。「明治維新」については，複雑な国際情勢の中で独立を保ち，近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせるようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)キ →
・黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること

「開国とその影響」:

・アの欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱うようにし，幕府が対外政策を転換して開国したこと，その政治的及び社会的な影響を理解させ，それが明治維新の動きを生み出したことに気付かせる

「富国強兵・殖産興業政策」:

・廃藩置県，学制・兵制・税制の改革，身分制度の廃止，領土の画定などを取り扱い，学制など今日につながる諸制度がつけられたことや，身分制度の廃止にもかかわらず現実には差別が残ったことに気付かせる
・領土の画定：ロシアとの領土の画定をはじめ，琉球の問題や北海道の開拓を扱う
* 中国や朝鮮との外交も扱う

「文明開化」:

・欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で，社会の様子や人々の生活が大きく変化したことに気付かせる

◎新政府による改革の特色:

・欧米諸国とのかかわりや社会の近代化など，近世から近代への転換の様子を，近世の政治や社会との違いに着目して考察し，自分の言葉で表現できるようにさせる

◎新政府による改革の特色を考えさせ，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解させる

・複雑な国際情勢の中で独立を保ち，近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせる

→高世界史A(2)エ
・アジア諸国の変貌と現代の日本
→高世界史B(4)エ
・世界市場の形成と日本

→高日本史A(2)ア
・近代国家の形成と国際関係の推移

→高日本史B(4)ア
・明治維新と立憲体制の成立

学習の手立ての例

- ・ 江戸幕府が開国へと対外政策を転換した理由を、欧米諸国のアジア進出と関連付けて考える
- ・ 井伊直弼が朝廷の許可なく日米修好通商条約を結んだ理由を考える
- ・ 日米修好通商条約の条文から、不平等条約であったことを読み取る
- ・ 貿易や金銀の交換比率、物価の動き等から、開国が当時の社会に及ぼした影響を考える
- ・ 開国後の幕府の政治に対する人々の考えがどのように変化したかを話し合う
- ・ 開国から大政奉還までの動きを年表にまとめる
- 🏠 日米和親条約で開港した下田の変化を調べる（玉泉寺、唐人お吉）
- 🏠 ディアナ号と戸田を調べる（沼津市）
- 🏠 徳川慶喜と静岡との関係を調べる
- ★ ペリー艦隊の航路を詳しく調べる
- ★ 坂本龍馬等、幕末の志士たちの活躍を調べる
- ★ 五箇条の御誓文と五榜の掲示を比較する
- ・ 明治政府が行った政策を調べ、それぞれの目的や内容から江戸時代の政策との違いを考える
- ・ 武士出身の明治政府の指導者が、あえて士族の存在を否定する政策を進めた理由を、国家財政や四民平等の内容と併せて考える
- ・ 明治政府の政策に対する人々の反応から、政策実施の問題点を話し合う
- ・ 岩倉使節団の成果と課題から、明治政府が目指した日本の姿を考える
- ・ 明治政府が周辺諸国との間で領土の画定を行った理由を考える
- 🏠 静岡県の廃藩置県、地租改正の様子を調べる
- ・ 明治時代の東京銀座周辺の様子から、人々の生活（衣・食・住等）がどのように変化したかを考える
- ・ 日本に広がった新しい思想について調べ、その後の日本に及ぼす影響を考える
- 🏠 身近な地域に残る史跡を調べる
（例：松崎町の旧岩科学校、伊豆市の修善寺ハリストス正教会顕栄聖堂、沼津市の沼津兵学校跡、静岡市の旧エンバーソン住宅・教導石・静岡学問所跡、磐田市の旧見付学校・旧赤松家）
- ★ 身分制度の廃止後も残った差別を調べる

(5) 近代の日本と世界

ウ 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。

(内容の取扱い)

ウ ウの「日清・日露戦争」については、このころの大陸との関係に着目させること。「条約改正」については、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための人々の努力に気付かせるようにすること。「立憲制の国家が成立して議会政治が始まる」については、その歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせるようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)ク →
・大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること

「自由民権運動」「大日本帝国憲法の制定」:

- ・自由民権運動の全国的な広がり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特色を扱う
- ・大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立したことに着目させ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせる

「日清・日露戦争」:

- ・このころの大陸との関係に着目させて、戦争に至るまでの我が国の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを扱う

「条約改正」:

- ・長年にわたる外交上の課題として取り組まれたことと、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための人々の努力」に気付かせる

◎ 立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる

→中公民(3)ア

- ・人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

→高世界史A(3)イ

- ・世界戦争と平和

→高世界史B(5)ア

- ・帝国主義と社会の変容

→高日本史A(2)ア

- ・近代国家の形成と国際関係の推移

→高日本史B(4)ア

- ・明治維新と立憲体制の成立

→高日本史B(4)イ

- ・国際関係の推移と立憲国家の展開

学習の手立ての例

- ・自由民権運動の広がりの様子を調べ、この運動が拡大した理由を話し合う
- ・政府が国会の開設を約束し、憲法制定の準備を行った理由を考える
- ・国会の開設に向けて結成された政党を調べ、これらの政党と政府との考え方の違いについて考える
- ・大日本帝国憲法の内容を日本国憲法と比較し、その特色を考える
- ・自由民権運動の始まりから帝国議会の開設までの動きを年表にまとめる
- ・議会で多数派を占めた民権派の意見が通らなかった理由を、大日本帝国憲法の仕組みから考える
- ・当時アジアで唯一の立憲制の国家が誕生したことについて、歴史上の意義やつながりを考える

📍 静岡事件を調べる

★ 民権派の憲法案（日本国憲法案等）について調べ、大日本帝国憲法と比較する

★ 津田梅子の活躍を調べる

- ・欧米諸国によるアジア進出の状況を調べ、当時の日本政府の課題を話し合う
- ・日清戦争に至るまでの動きをまとめ、日本が清と戦った理由を考える
- ・下関条約と三国干渉から、日本とロシアとの関係の変化を考える
- ・戦争の勝利が、日本の中国や朝鮮に対する意識をどのように変化させたかを話し合う
- ・日露戦争に至るまでの動きをまとめ、日本がロシアと戦った理由を考える
- ・ポーツマス条約により日本が得た領土や権益について地図にまとめ、日本の勢力拡大の様子を捉える
- ・日露戦争後の韓国や中国の変化を調べ、日本との関係の変化を話し合う

📍 日清・日露戦争で従軍した地域の人々の様子を調べる（袋井市の可睡齋など）

★ 与謝野晶子や内村鑑三らの反戦の動きを調べる

★ 日本による韓国の植民地化の様子を詳しく調べる

★ 三民主義から、孫文がどんな中国を目指したのかを考える

- ・不平等条約の改正に向けて活躍した人物を調べ、条約改正により日本の国際的な地位の変化を話し合う

(5) 近代の日本と世界

エ 我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを通して，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解させる。

(内容の取扱い)

エ エの「我が国の産業革命」については，イの「富国強兵・殖産興業政策」の下で近代産業が進展したことと関連させて取り扱い，都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気付かせるようにすること。「近代文化」については，伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたものであることに気付かせるようにすること。

主な学習内容

小6社会(1)ク →
・大日本帝国憲法の
公布，日清・日露
の戦争，条約改正，
科学の発展などに
ついて調べ，我が
国の国力が充実し
国際的地位が向上
したことが分かる
こと

「我が国の産業革命」:

・富国強兵・殖産興業政策の下で近代産業が進展したことと関連させて取り扱うようにする

例)・製糸業，紡績業や鉄鋼業の発展などの例を取り上げ，我が国の近代産業は日清戦争前後から飛躍的に発展して資本主義経済の基礎が固まったことに気付かせる

・都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気付かせる

「この時期の国民生活の変化」:

・鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられたこと，その一方で労働問題や社会問題が発生したことに気付かせる

*近代化遺産を取り上げるなど，身近な地域を例として変化の様子を具体的にとらえさせるような工夫が望まれる

「学問・教育・科学・芸術の発展」:

・学問や科学の分野に国際的な業績が生まれるなど，その進歩が著しかったことに気付かせる

・近代の文化の学習に際しては，伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたものであること

に気付かせる

*代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせるようにする

◎我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解させる

→高日本史A(2)イ
・近代産業の発展と
両大戦をめぐる国
際情勢
→高日本史B(4)ウ
・近代産業の発展と
近代文化

学習の手立ての例

- ・政府が主導して急速に産業の近代化を図った理由を話し合う
- ・日本の製糸業や紡績業，鉄鋼業等，近代産業発展の様子を年表にまとめ，経済の仕組みの変化を話し合う
- ・小作農家と地主の家計を比較することを通して，農村の人々の生活を考える
- ・製糸工女の1日の生活の様子から，近代産業が発展する一方で労働問題が生まれたことを話し合う
- ★ 足尾鉍毒事件における田中正造の業績を調べる
- ・交通の発達や工業の発達，国民生活に及ぼした影響を話し合う
- 🏠 東海道線や私鉄の開通によって身近な地域がどのように変化したかを調べる
- ★ 幸徳秋水の主張と大逆事件における処分を調べる
- ・明治時代の代表的な文化を調べ，江戸時代の文化と比較しながら，その特色を話し合う
- ・学問や科学の分野における研究やその成果について，国際的な視点から業績を考える
- 🏠 近代産業の発展に尽くした静岡県人を調べる (自動織機：豊田佐吉，ピアノ：山葉寅楠 等)

学習の手立ての例 ～時代を大観し表現する活動「開国と近代の幕開け」～

- 単元の導入に、開国から20世紀初頭までに活躍した人物や出来事、歴史的文化遺産から時代を概観する
- 政治、社会の様子、国際関係、生活の変化、文化について、明治時代と江戸時代の特色をまとめる表を作成する
- 項目ごとに、前の時代と学習した時代の特色を表にまとめる
- 全ての項目について、二つの時代を比較し、明治時代の特色を大きく捉える

<アプローチの視点例>

「開国と近代の幕開け」…江戸時代と明治時代の比較、世界の動きと日本、政治の特色、経済の特色、産業の特色、文化の特色、国民生活 等

(5) 近代の日本と世界

オ 第一次世界大戦の背景とその影響，民族運動の高まりと国際協調の動き，我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して，第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと，大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。

(内容の取扱い)

オ オの「第一次世界大戦」については，日本の参戦，ロシア革命なども取り上げて，世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにすること。「我が国の国民の政治的自覚の高まり」については，大正デモクラシーの時期の政党政治の発達，民主主義思想の普及，社会運動の展開を取り扱うようにすること。

主な学習内容

「第一次世界大戦の背景とその影響」:

- ・ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことに気付かせる
- ・日本の参戦，ロシア革命なども取り上げて，世界の動きと我が国との関連に着目し，大戦がその後の国際情勢及び我が国に大きな影響を及ぼしたことに気付かせる

「民族運動の高まりと国際協調の動き」:

- ・中国や朝鮮における民族運動の高まり，国際連盟の設立や軍縮条約の締結などを取り扱うようにする

「我が国の国民の政治的自覚の高まり」:

- ・大正デモクラシーの時期の政党政治の発達，民主主義思想の普及，社会運動の展開を取り扱う
- ・本格的な政党内閣による政党政治が展開したこと
- ・普通選挙制が実現したこと
- ・米騒動をはじめ，労働運動，農民運動，社会主義運動などの社会運動が幅広く行われるようになったこと
- ・女性の社会進出が進んだことに気付かせる

「文化の大衆化」:

- ・大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化，新聞・雑誌などの普及やラジオの放送開始などを扱うようにする

◎第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと，大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる

→高世界史A(3)イ
・世界戦争と平和
→高世界史B(5)イ
・二つの世界大戦と大衆社会の出現

→高日本史A(2)イ
・近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢
→高日本史B(5)イ
・第一次世界大戦と日本の経済・社会
→高日本史B(5)ア
・政党政治の発展と大衆社会の形成

学習の手立ての例

- ・ 第一次世界大戦前のヨーロッパ諸国の関係図をまとめ，大戦が起こった理由を話し合う
- ・ 大戦における参加国や兵器等を調べ，これまでの戦争と異なる点を考える
- ・ 第一次世界大戦に日本が参戦した理由を，国際情勢と国内情勢の視点から話し合う
- ・ ロシア革命が起こった背景や展開，革命後の変化について調べ，大戦との関連を考える
- ★ 3C政策と3B政策を調べ，イギリスとドイツが対立を深めた理由を考える
- ★ 大戦前後のヨーロッパの国境線を調べ，ヨーロッパ世界の戦後の変化を考える
- ・ 大戦後のベルサイユ条約や国際協調，軍縮の動きから，国際情勢の変化を話し合う
- ・ 大戦後の中国や朝鮮における民族運動の動きを調べ，共通点を考える
- ★ ガンジーの「塩の行進」など，インドにおける独立運動を調べる
- ・ 吉野作造や美濃部達吉の思想や政治の動きから，デモクラシーの風潮が高まっていった理由を考える
- ・ 米騒動や労働，女性，農民，社会主義運動の展開を調べ，それらの動きが高まった背景を話し合う
- ・ 護憲運動の始まりから普通選挙制実現までの動きをまとめ，政党政治の発達との関連を考える
- ・ 普通選挙法と同時に治安維持法を出した理由を考える
- 🏠 静岡県内における米騒動の動きを調べる
- ★ 吉野作造の民本主義や美濃部達吉の天皇機関説が生まれた背景などを，詳しく調べる
- ★ メーデー（5月1日）の由来や現在の様子を調べる
- ・ 大正期に都市を中心に広がった新しい文化を調べ，その特色を話し合う
- ★ 関東大震災における人々の動きを詳しく調べる

(5) 近代の日本と世界

カ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係，欧米諸国の動き，戦時下の国民の生活などを通して，軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

(内容の取扱い)

カ カについては，世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うとともに，国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせるようにすること。

主な学習内容

小6社会(1)ケ →
 ・日華事変，我が国にかかわる第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催などについて調べ，戦後我が国は民主的な国家として出発し，国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること

「経済の世界的な混乱と社会問題の発生」:

- ・世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化，我が国における経済の混乱と社会不安の広がりを取り扱う

「昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き」「中国などアジア諸国との関係」「欧米諸国の動き」

- ・我が国の政党政治が行き詰まりをみせ，軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したこと
- ・中国との戦争が長期化したこと
- ・国際連盟を脱退した日本がやがてドイツ，イタリアと三国同盟を結び，アメリカ合衆国，イギリス，そして終戦直前に参戦したソビエト連邦などとの大戦になったこと

を取り扱う

*世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱うようにする

- ・我が国が多くくの国々，とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと
- ・各地への空襲，沖縄戦，広島・長崎への原子爆弾の投下など，我が国の国民が大きな戦禍を受けたことなどから，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ，国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる

「戦時下の国民の生活」については：

- ・身近な地域の事例を取り上げるなどして，戦時体制下で国民の生活がどう変わったかに着目させるとともに，平和な生活を築くことの大切さに気付かせる

◎軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる

→高世界史A(3)イ
 ・世界戦争と平和
 →高世界史B(5)イ
 ・二つの世界大戦と大衆社会の出現

→高日本史A(2)イ
 ・近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢
 →高日本史B(5)ウ
 ・第二次世界大戦と日本

学習の手立ての例

- ・ 世界恐慌が欧米諸国や日本に及ぼした影響や、各国の経済対策をまとめ、国際関係の変化を話し合う
- ・ 恐慌の対策として、なぜ失業者を減らす必要があるのか、恐慌の仕組みから考える
- ・ 小作争議や労働争議の件数の変化から、日本経済の混乱や社会不安の広がりを考える
- ★ アメリカのニューディール政策やイギリス、フランスのブロック経済を詳しく調べる
- ・ 満州事変から五・一五事件、二・二六事件までの動きをまとめ、日本の政治の変化を話し合う
- ・ 日本が国際連盟を脱退した理由を話し合い、脱退後の外交関係の変化を考える
- ・ 日中戦争の長期化や広がりによる影響を、国内と植民地の視点から話し合う
- ・ 第二次世界大戦の始まりにより、国際関係がどのように変化したかを話し合い、関係図にまとめる
- ・ 日米対立の深まりを年表にまとめ、太平洋戦争の始まった理由を話し合う
- ・ 開戦後の日本の勢力図をまとめ、日本軍の進軍によるアジアなどの国々への影響の大きさを考える
- ・ 空襲や沖繩戦等の状況を調べ、戦禍の大きさを考える
- ★ 広島・長崎への原爆投下に至る経緯や被害の大きさを調べる
- ・ 原爆をなぜ首都東京に落とさなかったのか考える
- ・ 世界全体から見た大戦による戦禍の大きさを調べ、大戦後の世界の在り方を話し合う
- 🏠 沼津、静岡、浜松の大空襲など、静岡県下の戦災を調べる
- ・ 戦時下の国民生活の様子について調べ、現在の生活との比較から、平和の尊さを話し合う
- 🏠 身近にいる高齢者から、戦争による生活の変化や戦時下の生活を聞き取る
- 🏠 「静岡県史」や「市町村史」等で、県内の戦争被害の状況を調べる
- ★ 「アンネの日記」を読み、戦時下の暮らしや人々の思いに触れ、感想を話し合う
- ★ 学徒出陣で戦死した兵士の手記「きけわだつみのこえ」を読み、彼らの思いに触れ、感想を話し合う
- ★ 朝鮮に渡った浅川巧やユダヤ人にビザを発行した杉原千畝を調べる

学習の手立ての例

～時代を大観し表現する活動「二度の世界大戦と日本」～

- ・ 単元の導入に、第一次世界大戦から第二次世界大戦までに活躍した人物や出来事、歴史的・文化遺産から、時代を概観する
- ・ 大正時代から第二次世界大戦の終結までの世界と日本の動きを年表と世界地図にまとめる
- ・ 民主主義、経済成長、国民生活、国際関係、戦争と平和等の視点から、年表を捉え直す
- ・ それぞれの視点について、前の時代（開国と近代の幕開け）と比較し共通点や相違点をまとめる
- ・ それぞれの視点のまとめから、この時代の特色を大きく捉える

<アプローチの視点例>

「二度の世界大戦と日本」…民主主義、経済成長、国民生活、国際関係、戦争と平和 等

(6) 現代の日本と世界

- ・従前の「(5) 近現代の日本と世界」の中項目キとクを、近現代の学習を一層重視し我が国の現代の特色をとらえさせる観点から独立させ、「(6) 現代の日本と世界」という大項目として構成した
- ・この時期の我が国は、第二次世界大戦後の混乱の中から民主的な文化国家を目指して再建と独立の道を歩み、冷戦など世界の動きとのかかわりの中で、経済や科学技術の急速な発展を成し遂げた

ア 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。

(内容の取扱い)

- (6) ア アについては、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせるようにすること。「第二次世界大戦後の諸改革の特色」については、新たな制度が生まれたことなどに着目して考えさせるようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)ケ →
 ・日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること

「冷戦」:

- ・国際連合の発足、米ソ両陣営の対立、アジア諸国の独立、朝鮮戦争、その後の平和共存の動きなどを、我が国の動きと関連させながら取り扱う

「我が国の民主化と再建の過程」:

- ・戦後の混乱の中で、国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に、日本国憲法の制定をはじめとして大きな改革が次々に進められ、現代の日本の骨組みが形成されたことに気付かせる
 ＊戦後の混乱や生活の様子、国民の努力などについて、身近な地域などの具体的な事例を基にとらえさせるようにし、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせる

「国際社会への復帰」:

- ・我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰したことを取り扱う

「第二次世界大戦後の諸改革の特色」:

- ・政治・経済面などの諸改革の特色を、新たな制度が生まれたことなどに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせる

◎第二次世界大戦後の諸改革の特色を考えさせ、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる

→高世界史 A (3) ウ
 ・三つの世界と日本の動向
 →高世界史 B (5) ウ
 ・米ソ冷戦と第三世界

→中公民 (3) ア
 ・人間の尊重と日本国憲法の基本的原則
 →中公民 (4) ア
 ・世界平和と人類の福祉の増大

→高日本史 A (3) ア
 ・現代日本の政治と国際社会
 →高日本史 B (6) ア
 ・現代日本の政治と国際社会

学習の手立ての例

- ・国際連合の仕組みを国際連盟と比較し、平和維持のために工夫された点を考える
- ・国際連合発足後も東西陣営が冷戦を展開した理由を話し合う
- ・冷戦が日本や東アジアに与えた影響を調べる
- ・植民地支配から解放され独立した国々を調べ、残された課題を話し合う
- 📖 ビキニ環礁水爆実験による第五福竜丸の被曝から、原水爆禁止運動の展開を調べる
- ★ 朝鮮戦争により二つに分断された朝鮮半島の現在の様子を調べる
- ・GHQによる占領政策を概観し、日本の戦後改革がどのように進められたか話し合う
- ・制定された日本国憲法を大日本帝国憲法と比べ、新しい日本の姿を話し合う
- ・財閥解体、農地改革、選挙法改正、民法改正、教育基本法制定等の諸改革と、日本の民主化とのつながりを考える
- ・戦後改革に伴う国民生活の変化を調べ、当時の国民の思いを話し合う
- 📖 身近な地域の戦後の復興について、身近な高齢者に話を聞いたり、地域の資料館で調べたりする
- ★ 極東国際軍事裁判（東京裁判）の様子を調べる
- ・GHQによる占領政策が、朝鮮戦争をきっかけとして転換した理由を考える
- ・サンフランシスコ平和条約の条文から、日本が独立を回復したことを読み取る
- ・日米安全保障条約の締結をめぐる、国内が対立した理由について、条約締結の背景や条約の内容から話し合う

(6) 現代の日本と世界

イ 高度経済成長、国際社会とのかかわり、冷戦の終結などを通して、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。

(内容の取扱い)

イについては、沖縄返還、日中国交正常化、石油危機などの節目となる歴史的な事象を取り扱うようにすること。

主な学習内容

小6 社会(1)ケ →
・日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること

「高度経済成長」:

- ・我が国における産業・経済や科学技術の著しい発展とそれに伴う生活の向上
- ・それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長
- ・「石油危機」が経済に及ぼした影響などに気付かせる

「国際社会とのかかわり」:

- ・沖縄返還、日中国交正常化などを取り扱う

「冷戦の終結」:

- ・世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことに気付かせる

◎我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる

- *その内容と現在の自分たちの生活との深いつながりや、現代の日本と世界の動きに関心をもたせるよう工夫し、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助などに着目させて国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させ、公的分野の学習に向けた課題意識をもたせることが大切である
- *歴史的な分野の学習を終えるに当たって、我が国の歴史の大きな流れを振り返り、広い視野に立って我が国の伝統と文化の特色を考えさせ、社会の一員としての自覚に立って明るい未来の創造に意欲を高めさせるよう指導に配慮する

→高世界史A(3)エ
・地球社会への歩みと課題
→高世界史B(5)エ
・グローバル化した世界と日本

→中公民(1)ア
・私たちが生きる現代社会と文化
→高日本史A(3)イ
・経済の発展と国民生活の変化
→高日本史B(6)イ
・経済の発展と国民生活の変化

→中公民(4)イ
・よりよい社会を目指して

学習の手立ての例

- ・産業や経済、科学技術の著しい発展等、高度経済成長が国民生活に及ぼした影響を話し合う
- ★東京オリンピックや大阪万博を調べ、日本の経済発展の様子を話し合う
- ・石油危機が日本経済や国民生活に及ぼした影響を、当時の新聞記事や身近な大人への聞き取りを通して調べる
- ・石油危機を乗り越え、その後、経済大国として成長した日本の国際的な役割を考える
- ・独立回復後の沖縄復帰や外交関係(対中国、ソ連、韓国)の変化についてまとめ、国際情勢の変化との関連を話し合う
- ★キューバ危機やベトナム戦争を詳しく調べる
- ・冷戦終結後の国際情勢の変化の様子を調べ、協調と紛争の視点からまとめる
- ★冷戦後の国際協調の動きから、日本の役割がどのように変化したかを話し合う
- 📍静岡県と外国との友好関係や交流のようすを調べる
- ★世界で活動、活躍している日本人を調べる

学習の手立ての例 ～時代を大観し表現する活動「現代」～

- ・ 単元の導入に、戦後から現在までに活躍した人物や出来事、歴史的文化遺産から、時代を概観する
 - ・ 戦後から現在までの世界と日本の動きを年表にまとめる
 - ・ 戦後から現在までの歴史を社会、国際関係、環境の観点から捉え直し、戦後から現在までにそれぞれのよう
な問題があり、そして克服してきたかについて表にまとめる
 - ・ これまでの作業を通して、今も未解決な課題だと考えたことや今後も継続すべきだと考えたことをまとめる
 - ・ 自分で考えたことを踏まえて、これからどんな時代を築いていきたいか、自分の考えをまとめる
- <アプローチの視点例>
「現代」…世界の中の日本、国際関係、政治の特色、経済の特色、環境問題、文化の特色、国民生活 等

学習の手立ての例 ～歴史的分野の学習を振り返る～

- ・ 我が国の歴史の中で育まれてきた、現代に伝わる日本らしさについて自分の考えをまとめる
- ・ これからの世界の中の日本の役割を考えたとき、日本人として大切にしたい日本らしさを話し合う
- ・ 話し合いを通して深まった自分の考えや、時代を大観して捉えた現代の特色を基に、よりよい社会の創造に向けた自分なりの目標をまとめとして記述する